大学コンソーシアム沖縄　令和 3 年度　第2回運営委員会

議事次第

１．日　時：令和３年１１月１９日（金）１４：３０～１６：００

２．場　所：Ｚｏｏｍ会議

３．議　事	資料番号
（１）大学コンソーシアム沖縄の法人概要とこれまでの活動について	
① 大学コンソーシアム沖縄の法人概要とこれまでの活動について	資料１－１
② 2020 県内大学ＷＥＢ入試説明会について	資料１－２
③ 大学コンソーシアム沖縄ＳＤＧs の取り組みについて	資料１－３
④ 県民向け公開講座の実施について	資料１－４
（２）大学コンソーシアム沖縄の今後の運営と事務局体制について	資料２
（３）その他	
①令和３年度版 大学コンソーシアム沖縄リーフレットについて	資料３
②令和３年度に係る大学コンソーシアム沖縄の監査人について	資料４
③加盟校による新型コロナウイルス感染症ワクチン接種協力状況について	

【配布資料】

（大学コンソーシアム沖縄　令和３年度第１回運営委員会　議事概要〈承認済〉）

資料１－１　大学コンソーシアム沖縄の法人概要とこれまでの活動について

資料１－２　2020 県内大学ＷＥＢ入試説明会について

資料１－３　大学コンソーシアム沖縄 ＳＤＧs の取り組みについて

資料１－４　大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座の実施について

資料２　　大学コンソーシアム沖縄の今後の運営と事務局体制について

資料３　　令和３年度版 大学コンソーシアム沖縄リーフレット

資料４　　大学コンソーシアム沖縄 監査に関する申合せ

※下記の参考資料は、大学コンソーシアム沖縄ＨＰの加盟校限定ページより必要に応じ入手下さい

参考資料１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄 定款

参考資料２　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄 運営委員会 運営委員名簿

参考資料

令和３年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第１回）議事概要

○日　時：令和３年６月３日（木）１３：３０～１４：２０
○場　所：琉球大学 本部棟 ２階 第二会議室（ＷＥＢ会議ホスト）各加盟校（ＷＥＢ会議参加）
○出席者：満尾 俊一 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、下地 孝之 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長）、仲間 末美 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代 真紀 委員（沖縄大学総務課長）、山城 秀史 委員（沖縄女子短期大学総務企画課長）、仲田 哲二 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、新里 雅恵 委員（沖縄県立芸術大学総務課長）、砂川 一弥 委員（名桜大学総務課長）、仲里 勉 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、金城 邦光 委員（沖縄工業高等専門学校総務課長）、東恩納 こずえ 委員（沖縄科学技術大学院大学 学生支援セクションマネージャー）
○欠席者：なし
○陪席者：稲福 太一（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課課長代理）、根間 友紀乃（同課 企画係員）、島袋 健（同課 企画係員）

【要旨】

議題に先立ち、令和３年度最初の運営委員会で委員の変更もあることから、自己紹介が行われた。

引き続き、事務局長から前回議事録について、2/12 に修正等の確認メールを行なっているが、特に修正等の連絡がないため確定するとの発言があった。

議題（１）令和２年度事業報告について

○大学コンソーシアム沖縄事務局（島袋）から、６月１８日開催予定の大学コンソーシアム沖縄第１２回社員総会議事次第（案）に沿って、資料１「令和２年度事業報告について」の説明があった。ＦＤ事業の数理・データサイエンス教育普及展開ワークショップについては、令和３年度も計画されており、社員総会では追加資料により報告する予定である旨の発言があった。
また、同様に資料１－４の県内大学入試説明会についても加盟校の入試担当者会議で令和３年度の実施が計画されており、社員総会では追加資料により報告する予定である旨の発言があった。
審議の結果、資料１－３のＦＤ・ＳＤ事業のＳＤ事業について、委員から大学名の記載誤りの指摘があり、修正の上、社員総会へ報告することが承認された。

議題（２）令和２年度決算について

○資料２－１「決算報告」については事務局（島袋）から、また資料２－２「監査報告」については、監査人当番校である沖縄キリスト教学院大学の仲間委員から、それぞれ報告があり、審議の結果、提案どおり、社員総会へ報告することが承認された。

議題（３）令和３年度事業計画（案）について

○事務局（島袋）から資料３「令和３年度事業計画（案)」について説明があった。連携による人材育成事業「①トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」については、事務局（下地課長）からコロナ禍での状況の補足説明があった。審議の結果、提案どおり、社員総会へ諮ることが承認された。

議題（４）令和３年度予算（案）について

○事務局（島袋）から資料４「令和３年度予算（案)」について説明があり、審議の結果、提案どおり、社員総会へ諮ることが承認された。

議題（５）その他

①大学コンソーシアム沖縄代表理事が加入している団体について

事務局（島袋）から資料５－１に基づき説明があり、審議の結果、提案どおり、社員総会へ情報共有のため報告することが承認された。

②地域連携プラットフォームについて

事務局（下地課長）から前回社員総会後の状況について、社員総会で報告する予定である旨の説明があり、審議の結果、提案どおり、社員総会へ報告することが承認された。

③情報交換（ＳＤＧｓの取組みについて）

事務局（島袋）から資料５－２に基づき説明があった。大学コンソーシアム沖縄でのＳＤＧｓの取組みの進捗状況として、５月２５日に沖縄県の「おきなわＳＤＧｓパートナー」に登録されたこと、大学コンソーシアム沖縄でＳＤＧｓの取組みを検討する組織として「大学コンソーシアム沖縄ＳＤＧｓプロジェクト」を立ち上げたことの報告があった。

検討組織である「大学コンソーシアム沖縄ＳＤＧｓプロジェクト」に参加している県立芸術大学の新里委員からは、大学でのＳＤＧｓの取組みの参考にと思い、参加しているとの発言があり、まだ、参加されていない加盟校への参加の呼びかけがあった。

④全体を通しての意見等

○各加盟校からの意見、報告は無かった。

（以上）

資 料１－１

大学コンソーシアム沖縄の法人概要及びこれまでの活動について

１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄の概要

（１）設立：平成２６年９月２６日

（２）目的：沖縄県内の大学が、相互に建学の精神を尊重しつつ、有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また、産学官の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的とする。

（３）正会員（社員）：琉球大学、名桜大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄大学、沖縄国際大学、
沖縄女子短期大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学、
沖縄県立看護大学、沖縄県立芸術大学、沖縄工業高等専門学校
賛助会員：岸本ファミリー個人慈善基金、放送大学沖縄学習センター

（４）法人のミッション（定款第４条に明記された事業）
１　グローバル人材の育成、２　単位互換、３　学生間の連携・交流、４　共同研究、
５　教職員の研修、交流及び情報交換、６　小中高大連携活動、
７　公開講座（県民フォーラム・出前講座）、８　産学官連携、９　各種の地域社会貢献、
10　その他

２　令和３年度の運営体制及び財源等について

（１）職員について

【併任職員】

① 事務局長　１人（併任・無償）

【プロジェクト付の職員】

② 子どもの居場所学生ボランティアセンター
センター長（併任・無償）：１名、副センター長（併任・無償）：５人、
コーディネーター（専任・有償）：３人、事務補佐員（専任フルタイム・有償）１人、
事務補佐員（専任パートタイム・有償）１人

③ 琉球大学職員による事務局運営の業務補助
総会、運営委員会の運営、沖縄県の委託事業の申請手続き、採択後の予算の管理、事業の執行役員変更登記等法務局手続き、法人税、消費税等税務官署手続き及び委託事業に伴う非常勤職員雇用に係る給与・賞与計算、ハローワーク、年金事務所申請手続きなどについて業務補助を全面的に支援している。

（２）財源について

（自己財源）

正会員からの会費（Ｈ２６年度～Ｈ２７年度：１００万円、Ｈ２８年度～：１３０万円）
３大学×２０万円＋７大学・高専×１０万円＝１３０万円

賛助会員からの会費（R2 年度：２０万円）　１団体 × １０口 × ２万円／口

（委託事業）

①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業委託業務（沖縄県）

Ｒ３年度委託費：３７，４２５千円

寄附金（Ｒ２年度末）残高：１８，８３０千円

（３）これまでの自己財源（１３０万円）の執行

①法人税、②理事の変更に伴う登記に係る諸費用、③大学コンソーシアム沖縄の各種事業に講演謝金、会場借入代、チラシ等郵送費

３　令和元年度～令和３年度までの法人の活動

（１）令和元年度

①子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

（沖縄県の委託事業：子ども生活福祉部子ども未来政策課課）(H28 年度~R3 年度)

②県民向け公開講座　沖縄キリスト教学院大学主催(R1.9.7)　他５件

テーマ：アフガニスタン命の水を　～干ばつの大地に用水路を拓く《講師：中村哲》

③ＦＤ・ＳＤ研修　大学コンソーシアム沖縄主催(R2.2.14)　他５件

テーマ：アメリカを抱きしめて　～日本人アメリカニストの軌跡～《講師：吉原真里》

④合同入試説明会　大学コンソーシアム沖縄主催(R2.3.8)新型コロナウイルス感染症のため延期

（２）令和２年度

①子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

（沖縄県の委託事業：子ども生活福祉部子ども未来政策課課）(H28 年度~R3 年度)

②県民向け公開講座　沖縄大学第 572 回土曜公開講座(R3.1.23)

テーマ： コロナの影響から子どもをどう守るか

③ＦＤ・ＳＤ研修　琉球大学主催

(FD)令和 2 年度数理データサイエンス教育普及展開ワークショップ(R2.11.16)

～すべての沖縄県内大学生へデータサイエンスを　Part２～

(SD) 国際交流危機管理研修(R3.3.2)

④合同入試説明会　大学コンソーシアム沖縄主催(R2.11.23)　〈沖縄県高等学校 PTA 連合会共催〉

～県内大学 WEB 入試説明会～親子のため進路研修会～　　※県内７大学２短期大学参加

（３）令和３年度（上半期）

①子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

（沖縄県の委託事業：子ども生活福祉部子ども未来政策課課）(H28 年度~R3 年度)

②県民向け公開講座　沖縄大学第 578 回土曜公開講座(R3.9.25)

テーマ： 大切な人を最後に看取ること～終末期ケアを考える～

③ＦＤ・ＳＤ研修　琉球大学主催研修の提供依頼中

④合同入試説明会　大学コンソーシアム沖縄主催(R3.8.15)　〈沖縄県高等学校 PTA 連合会共催〉

～県内大学 WEB 入試説明会～親子で知る今年の入試～　　※県内７大学２短期大学参加

⑤ＳＤＧｓへの取組み（令和新規事業）

・沖縄県　ＳＤＧs 普及パートナー登録(R3.5.25)　※おきなわＳＤＧs パートナーとして連携

・(琉球新報）ＯＫＩＮＡＷＡ　ＳＤＧs プロジェクト（OSP）にアカデミヤとして連携

・大学コンソーシアム沖縄プロジェクトを立ち上げ、現在、取組みについて検討中

【参考】

平成２６年度～平成３０年度までの法人の活動

（１）平成２６年度

①第１回大学コンソーシアム沖縄設立記念シンポジウム２０１４（H26.12.23）

②第１回学生サミット２０１４(H27.3.7-8)

③県民向け公開講座　第１回琉球大学(H27.1.25)

（２）平成２７年度

①第２回大学コンソーシアム沖縄主催シンポジウム２０１５(H27.10.10)

テーマ「グローバル人材の育成」

②第２回学生サミット２０１５（H27.12.19）

テーマ「２０３０年の世界は平和か？」

③県民向け公開講座　第２回沖縄国際大学(H27.5.23）他

④平成２７年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

（３）平成２８年度）

①第３回大学コンソーシアム沖縄主催シンポジウム２０１６　テーマ「ボランティア精神」

②第３回学生サミット２０１６

③県民向け公開講座　第回沖縄国際大学(H28.8.）他

④平成２８年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

⑤子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営（H28 年度新規事業）

（４）平成２９年度

①知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（H29 年度新規事業）

②第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（H29.10.7-8）

③県民向け公開講座

④平成２９年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

⑤子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

⑥中国の学生と昼食交流会（日中植林・植樹国際連帯事業）(H29.9.14)

⑦グローバル・ピース・ダイアログ沖縄（H30.3.9）

（５）平成３０年度予定

①知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業

②県民向け公開講座

③子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

平成２６年度～平成３０年度までの事業とその成果

（１）シンポジウムの開催（H26 年度~H28 年度）

成果：①大学コンソーシアム沖縄の県民への周知
②大学コンソーシアムが果たすべき役割の検討
③米国国務省からの奨学金の獲得（グローバル人材の育成）

（２）学生サミット（H26 年度~H28 年度）

成果：①１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築
②大学生による新たなイノベーションの創造

（３）県民向け公開講座（H26 年度~H30 年度）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献）、
②大学コンソーシアム沖縄の周知

（４）子供科学人材育成事業（沖縄県の委託事業：企画部科学技術振興課）（H27 年度~H29 年度）

成果：将来の沖縄県の科学技術を担う小中高校生への最先端の科学講座の実施による人材育成

（５）子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営（沖縄県の委託事業：子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課）（H28 年度~H33 年度）

成果：貧困家庭の子どもに対する就学支援等による、自己肯定感の向上及び居場所における安心感の向上

（６）知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）（H29 年度~H31 年度）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献）、
②地域の課題解決（各種の地域社会貢献，産学官連携）

（７）第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（H29 年度限り）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献）、
②大学コンソーシアム沖縄の周知
③グローバル人材の育成

（８）グローバル・ピース・ダイアログ沖縄

成果：①グローバル人材の育成
②高大連携活動
③１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築

（９）中国の学生と昼食交流会（日中植林・植樹国際連帯事業）（H29 年度限り）

成果：１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築

資 料1－2

「沖縄県内大学WEB入試説明会～親子で知る今年の入試～」実施概要

1，日時＜別紙「案内チラシ」参照＞

令和3年8月15日（日）13：00～15：30　オンライン（WEB）開催

2，実施内容

○「入試の基本を知ろう」、全体概要説明

○各ブースにおいて各大学説明（2セッション）参加者は最大2大学の説明を視聴可能

3，参加大学

大学コンソーシアム沖縄加盟校のうち、OIST、沖縄工業高等専門学校を除く、7大学、2短期大学が参加し、実施。（琉球大学、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学）

4，後援

・沖縄県教育委員会及び沖縄県高等学校長協会が後援。

5，広報

・沖縄県高等学校PTA連合会から各高等学校PTAを通してFAXにより保護者へ周知・参加依頼。

・大学ホームページ及び大学コンソーシアム沖縄ホームページでの告知。

・報道機関へプレスリリース。うち沖縄タイムス社、琉球新報社、紙面掲載告知。

・大学コンソーシアム沖縄から各高等学校へ案内チラシ及び掲示用ポスター郵送し、周知依頼。

6，8/15（日）の参加状況＜別紙「参加状況資料」参照＞

○「入試の基本を知ろう」概要説明で 225 件、二つの各大学入試説明で延べ 413 件のアクセス数。

7，アンケートの主な声＜8/28 時点で140件の回答＞

31 私立大学、国立大学、県立大学それぞれの入試の共通する部分とそうでない部分をわかりやすく分野ごとに説明してくれたところです。

37 コロナ禍 Zoom で親子説明会参加できて良かったです。チャットの相談もでき満足でした。

40 まったく分からなかった大学受験でしたが、全体が見えて理解できました。知りたいポイントを上手く説明してくださっていたので、逆に分からないポイントを発見でき、情報収集の時に役立ちそうです。

47 親が入試について理解してくれて、話しやすくなりました。

84 パンフレットだけでは知らない情報を知ることができ、またとても丁寧な説明を聞くことができたのでとてもいい機会になりました！

17 今後もこのような機会を作って頂ければありがたいです。 37 今後も Zoom で大学受験生に向けたイベントあったら参加したいです。

大学コンソーシアム沖縄へ⇒ 37 子供と親の目線の違いはかなり大きいと感じています。それぞれの不安解消に繋がる情報提供があればありがたいです。これからも、子どもたちに希望を与える存在であってください。

高等学校PTA連合会へ ⇒ 37 これからも様々な機関と連携して、子どもたちの支えとなっていただけたらありがたいです。親子だけではクリアできないことが、たくさんあるので、その存在がありがたいです。

2021年度 \WEB/

県内大学 入試説明会

University Consortium Okinawa

ー親子で知る今年の入試ー

沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会・大学コンソーシアム沖縄　共催

後援　沖縄県教育委員会・沖縄県高等学校長協会

沖縄県内の大学の
今年度実施される入試について
担当者が説明します。
みんなで入試を知って、
進路についてみなさんで
話し合うキッカケにしてください。

8月15日（日）

13：00～15：30

対象　高校生・保護者

ぜひ親子でご参加ください。

開催方法　ZOOM

ご自宅等からお気軽に。

お申し込み期間

7月8日～8月5日17:00

webからお申し込み可（下のQRコード）

参加大学

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学
沖縄県立看護大学
沖縄県立芸術大学
沖縄国際大学
沖縄女子短期大学
沖縄大学
名桜大学
琉球大学（五十音順）

【お問い合わせ先】
大学コンソーシアム沖縄事務局　（TEL）098-895-8998
（E-mail）chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

お申し込みは
こちらから

当日のスケジュール（予定）

全てzoomにて
ご覧いただけます。
質問もお気軽に。

13:00　開会挨拶

13:10　入試の基本を知ろう

13:30　各大学の2021年度に実施される入試の説明①

14:30　各大学の2021年度に実施される入試の説明②

「入試の基本を知ろう」と2大学のセッションの計最大3セッションにご参加いただけます。

お申込み

7月8日～8月5日 17：00まで

右下もしくは表のQRコードからお申し込みください。
Zoomの招待をお送りするために、
事前に参加申し込みをしてください。

申込締め切り後でも、
セッションによっては参加可能な場合もありますので、
下記へお問合せください。

お申し込みについてご不明な点は、
大学コンソーシアム沖縄事務局まで
ご連絡ください。

お申し込みはこちらから

参加費

無料

お問合せ

大学コンソーシアム沖縄事務局
〒903-0213　沖縄県中頭郡西原町字千原１
（TEL）098-895-8998
（E-mail）chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

資料1-3

第5回 大学コンソーシアム沖縄SDGsプロジェクト会議



2021年10月18日

琉球大学 羽賀

大学コンソーシアム沖縄SDGsプロジェクト会議#5　進行表

1．日時　2021年10月18日（月）13:30-14:30
2．開催方法　オンライン（Zoom）会議
3．議事進行表

時間	進行	目的・内容
13:30- 13:35	オープニング（5分）	・開会挨拶 ・前回会議の振返り
13:35- 13:55	意見交換の準備、これまでの振返り、情報共有（20分）	・全員でチェックイン ・これまでの振返り ・各大学より情報共有
13:55- 14:25	意見交換（30分）	・大学コンソーシアム沖縄でのSDGsの取組みのダイアログ ・アクションアイテム出し
14:25- 14:30	クロージング（5分）	・全員でチェックアウト

4．本日決めたいこと

・大学コンソーシアム沖縄SDGsプロジェクトの活動の方向性、アクションアイテム出し

大学コンソーシアム沖縄　SDGs 検討メンバー一覧（2021.4.19 現在）

機　　関　　名	所　　属	職　　種	氏　　名
琉球大学	人文社会学部 大学コンソーシアム沖縄 子どもの居場所学生ボランティアセンター（兼業）	教授 センター長	本村 真
琉球大学	研究企画室 SDGs 推進室(兼任)	上席URA	羽賀 史浩
琉球大学	総合企画戦略部 地域連携推進課	地域連携推進課長	下地 孝之
名 桜 大 学	国際学群	副学長・教授	林 優子
名 桜 大 学	人間健康学部 看護学科	上級准教授	本村 純
沖縄県立芸術大学	総務課	総務課長	新里 雅恵
沖縄科学技術大学院大学	学長オフィス	シニアアナリスト (IR 及び企画)	ルー　セシリア
沖縄科学技術大学院大学	研究科長オフィス	副研究科長	タカバヤシ　ミサキ
沖縄科学技術大学院大学	海洋生態物理学ユニット	准教授	御手洗　哲司
沖縄科学技術大学院大学	海洋気候変動ユニット	教授	ラバシ　ティモシー

※大学コンソーシアム沖縄事務局　琉球大学　総合企画戦略部　地域連携推進課　課長代理　稲福太一、企画係　島袋
　連絡先　：（電話）098-898-8998　（E-mail）chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
※沖縄科学技術大学院大学　担当窓口　東恩納 こずえ

「ありたい姿、ビジョン」ダイアログ

OIST、琉大、名桜大の情報提供を受けて、連携して取組んでみたいことは？

自然科学以外の文系の教員・学生もコラボできる取組みを一緒に

それぞれの活動や強みを組合わせる取組み

やんばる世界自然遺産登録に関連した取組み

biocultural conservation自然も経済も保全

STEAMや中高生の総合的探究授業での連携

OISTイノベーターズクラブによる大学間連携

地域の文化との融合した研究開発

カーボンニュートラルの取組みでの連携

オンラインツールを使って離島とOISTを繋ぐ

グローバルのゴールと地域の特徴を繋げる

大学の知が拡散するオープンなプラットフォーム

学生が自らSDGsのアクションを起こせる場作り

学生から教員へのアプローチ

テーマを決めて情報を集めてシンポジウム等で発信する

教育からSDGsキャリアへのパイプライン、SDGsキャリアフェアー開催など

メディアに出すことでSDGsの認知度を上げる触媒に

SDGs OKINAWA グランプリ2021

資料１－４

第578回沖縄大学土曜教養講座　オンライン講座

大切な人を最期に看取ること
―終末期ケアを考える



近年、日本では世界的な流れから、「エンド・オブ・ライフケア」や緩和ケアの領域に、身体的ケアのみならず、「スピリチュアルケア」の必要性が叫ばれています。そして、多くの施設や在宅で、その実践が試されているのです。「スピリチュアルケア」は、医療福祉だけでなく、災害事故などで愛する人を喪失した人のグリーフケア（悲嘆ケア）の分野でも重視されています。

最近は「終末期医療」という言い方よりは、「エンド・オブ・ライフケア」の言い方が増えています。一般の方々には、「終末期のケアとその生き方」という表現がいいかもしれません。医療と介護、福祉を連携して「ケア」していくという包括的な試みです。

真言宗僧侶である大下大圓さんに「人生の最期に、人は何を思い、何を希望するか～スピリチュアルケアの実践から」というテーマで講演をしていただきます。真言密教の大阿闍梨であり、臨床宗教師を多く導いてきた視点から、「大切な人を最期に看取ること」に関して実体験をお話していただきます。また、沖縄県内で活躍なさっている看護師２名をお招きし、沖縄の在宅看取りや沖縄県全体のケアについての現実的な話が伺える機会となることを期待しております。

死は誰にでも訪れるもの・・・そして、大切な人とはいずれ死別することになります。だからこそ、「大切な人を最期に看取ること」を現実的に私事として捉え、終末期ケアについて共有する機会を皆さまと持ちたいと考えています。

2021.9.25 土

先着100名

14:00～16:30 ※視聴は無料ですが、事前申込が必要です

プログラム

14:00～14:50　基調講演

テーマ「人生の最期に、人は何を思い、何を希望するか～スピリチュアルケアの実践から」

大下 大圓氏

14:50～15:00　休憩

15:00～16:00　シンポジウム

「大切な人を最期に看取ること―終末期ケアを考える」

大下 大圓氏
上原 弘美氏
金城 ユカリ氏
司会：山代 寛氏

16:00～16:30　質疑応答



講演者／指導講師



大下 大圓（おおした だいえん）　［飛騨千光寺住職、名古屋大学医学部講師(非)、日本ホスピス在宅ケア研究会理事］

1954年、岐阜県高山市生まれ。12歳の時に千光寺で出家。高野山大学文学部仏教学科卒業。岐阜大学教育学部研究生修了。京都大学こころの未来研究センター研修員修了。和歌山県の高野山で修行し（現在高野山傳燈大阿闍梨）、スリランカ国でテーラヴァーダー僧として得度研修。帰国後、地元教育委員会で社会教育担当（３年）。飛騨で約25年前より「いのち、生と死」の学習会として「ビハーラ飛騨」を主宰。「ひだ医療福祉ボランティアの会」を結成し、ベットサイドのボランティア活動を続ける。2000年から15年間、高山市内のクリニックでスピリチュアルケアワーカーとして患者家族の心理支援をする。現在日本スピリチュアルケア学会理事ほか。



上原 弘美（うえはら ひろみ）　［サバイバーナースの会「ぴあナース」代表・看護師］

がん罹患をきっかけに2010年がんを経験した看護師の会サバイバーナースの会「ぴあナース」を設立。現在、社会医療法人 友愛会 友愛医療センターで勤務しながら、ぴあナースの活動や24時間がん患者支援チャリティーイベントリレーフォーライフの実行委員として活動をしている。



金城 ユカリ（キン ジョウ）　［中頭病院勤務・緩和ケア認定看護師］

中頭病院・緩和ケア認定看護師。1991年社会医療法人敬愛会中頭病院へ就職し、内科・外科病棟で勤務、2008年緩和ケア認定看護師資格を取得。現在は、外来にて入院・在宅スタッフと協働し、途切れることのないケアの継続に取り組んでいる。又、2019年度沖縄県看護協会・緩和ケア認定看護師教育課程専任教員を経験し、緩和ケア人材育成に携わると同時に、沖縄県看護職人材育成研修において介護施設等で勤務する看護職者の研修指導を行い「看取りケア」に関する学びの輪を広げている。

司会者



山代 寛（ヤマ シロ ヒロシ）　［沖縄大学副学長・医師］

1961年、島根県松江市生まれ。沖縄大学教授、副学長、医師。島根県内の高校を卒業後、琉球大学医学部に進学。外科医として医師の道を歩むも、2008年、大学教授に転身、沖縄大学副学長を歴任。緩和医療、災害医療、喫煙対策の３つが天職であると公言している。前職では在宅緩和ケアに積極的に取り組み、沖縄大学では臨床経験をもとに管理栄養学科で生命倫理の講義を担当している。

オンラインの講義であり「Zoomウェビナー」を使って行います。Wi-Fiなどネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます。お申し込みされた方には、講義開始前日までに、接続先の情報（ログインURL）をメールにてご案内します。

■申込先　【MAIL】chiken-staff@okinawa-u.ac.jp
（件名は「9月25日土曜教養講座申込」本文で氏名・電話番号の記載をお願いします）

■問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地　【TEL】098-832-5599

今後の公開講座等の情報をご希望の方へLINEで配信を行っております。左のQRコードよりご登録ください！

沖縄大学 OKINAWA UNIVERSITY

第578回 沖縄大学土曜教養講座



2021年度 沖縄大学公開講座

オンライン講座

土曜教養講座 参加の流れ

1. 受講希望者さまからのメールでの申し込み

メールの宛先（chiken-staff @ okinawa-u.ac.jp）に件名「9月25日土曜教養講座申込」として本文に「氏名」「電話番号」を記入して送信ください。沖縄大学地域研究所より、申込受付の旨返信を致します。ただし先着順で受け付けますので、定数に達したら申込を締め切らさせて頂きます。ご了承ください。

差出人 › 受講希望者アドレス
宛　先 › chiken-staff@okinawa-u.ac.jp
件　名 › 9月25日土曜教養講座申込
本　文 › 受講希望者氏名、受講希望者電話番号



2. 沖縄大学地域研究所から招待メールの送信

講義開始前日までに、沖縄大学地域研究所よりZoomウェビナーの招待メールを送信します。講座当日の開始時間に合わせて招待メールにあるURLをクリックしてください。Zoomがダウンロードされてない方はダウンロードが始まりますのでダウンロード後に講座を受講してください。

受講に関しての注意点

- 著作権等の関係上、講演会の録画・録音・撮影、画面のキャプチャ、資料の転送・転載等はご遠慮ください。
- 当日の進行は、記録のために録画させていただきますので、ご了承ください。
- 当日は安定したネット環境をご準備ください。Zoomについては事前にインストール等をし、動作の確認を行って頂く事をお奨めします。操作に関する個別のご相談には対応できませんのでご了承ください。
- 講座の進行を著しく妨げる行為であると判断した場合、退室して頂く事もあります。あらかじめご了承ください。



■申　込　先　【MAIL】chiken-staff@okinawa-u.ac.jp（件名は「9月25日土曜教養講座申込」本文で氏名・電話番号の記載をお願いします）
■問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地　【TEL】098-832-5599

第 578 回　沖縄大学土曜教養講座

大切な人を最後に看取ること―終末期ケアを考える

【日　　時】　2021 年 9 月 25 日(土) 14:00～16:30
【会　　場】　アネックス共創館
【登 壇 者】　大下大圓（飛騨千光寺住職、名古屋大学医学部講師(非)、日本ホスピス在宅ケア研究会理事）
上原弘美（サバイバーナースの会「ぴあナース」代表・看護師）
金城ユカリ（中頭病院勤務・認定緩和看護師）
山代寛（沖縄大学副学長・医師）

【聴 講 料】無料
【申込人数】140 名
【参加者内訳】※アンケート回答数 67 人

(年代別)

10 代	3 人
20 代	2 人
30 代	4 人
40 代	12 人
50 代	29 人
60 代	10 人
70 代以上	7 人

(所属別)

一般	43 人
地域住民	3 人
本学同窓会	0 人
本学後援会	0 人
沖大生	3 人
学生	2 人
本学教員	1 人
その他	15 人

(都道府県別)

沖縄県	33 人
東京都	5 人
愛知県	5 人
兵庫県	5 人
大阪府	4 人
神奈川県	2 人
福岡県	2 人
三重県	1 人
北海道	1 人
和歌山県	1 人
埼玉県	1 人
山形県	1 人
滋賀県	1 人
石川県	1 人

(講座を知った方法)

チラシ	2 人
新聞	0 人
ラジオ	0 人
LINE	1 人
メール	20 人
知人・友人	26 人
沖大ホームページ	2 人
その他	16 人

■感想（漢字表現等は原文のまま。）
1. ホスピスでボランティアをしているので、このテーマにはとても興味がありました。スピリチュアルケア師という有資格者の存在を初めて知りました。ぜひ沖縄大学で資格取得できるように講座を開設していただきたいです。（６０代一般）

2. スピリチュアルケアというものを初めて知って、とても勉強になりました。（１０代学生）

3. とても興味深く拝聴しました。（６０代一般）

4. 講座に関係ない人の名前を出し困らせてしまいすみませんでした。　今回の講座ではスピリチュアルがどのように死生観に繋がるのか、何故自分なりの死生観を持つのことが重要なのかを知ることができました。また死生観を持ち死に向き合うことは、生に向き合うことにも繋がるのではないかと感じました。このような講座を開いていただきありがとうございます。（２０代沖大生）

5. 自分との向き合い方にも、仕事でも活かしていきたいと思いました。これから生きていく上でも心に留めておきます。（３０代一般）

6. とても興味があるお話ありがとうございました。あっという間に時間が過ぎてしまいました。大下先生の話、とても分かりやすかったです。もっとご縁を深めていきたいなと思いました。（６０代一般）

7. 死生観と感性の育て方を考えさせられました。（７０代）

8. 緩和ケア認定がそれぞれ死生観の違う患者さんと関わる大変さを改めて感じました。　そして本当に親身になって関わっているのを強く感じました。全ての人に当てはまる正解はないと思うけれども、その中で何が出来るか考える大切さを気付きました。（５０代地域住民）

9. 親が高齢になってきたので、今後に役立つのではないかと思い受講した。参考にしていきたい。（５０代一般）

10. 今後の自分の取り組みを考えるのに大変参考になる講座でした（５０代）

11. 終末期について、本人やご家族はどのような気持ちを抱いているのか、また専門職はどのように寄り添っているかなど学ばせていただきました。　何とかして助けなければならない・役立たなければいけないと思うのではなく、本人の気持ちを聴くこと、側にいることもケアになるということが印象的でした。自分自身はまだ学生なので相手に寄り添うということは難しいと思ってるのですが、これから感性を高めていければと思います。（２０代学生）

12. 大変深い内容でした。受講させて頂いてありがとうございました。（６０代一般）

13. 死生観を養うことの大切さを痛感するご講演でした。貴重なお時間を与えてくださりありがとうございました。（５０代）

14. エリザベス　キューブらロスの「死ぬ瞬間」の本の内容を思い出しながら

聴いていました。 受け入れるということ、感性を磨くということ、答えはその人の中にある。普段解っていても、自分んてどうなんだろうと基本にかえる、振り返る。いつも学ぶ姿勢が大事！と、自分自身を振り返りながら参加させていただきました。ありがとうございました。（６０代一般）

15. 大圓先生の講義はとてもわかりやすく、仏教の教えも少し知ることができてよかった。先生方のお話はせっかくなので質疑応答ではなく、何かテーマをもってシンポジウムのかたちで行ってもよかったのではと思った。ナースの方がそれぞれにエンドオブライフケアへの思いがある方々だったので、もっと話を聞きたかった。 司会の先生が患者の存命中には家族のケアはやってなかったと言われたがナースと医師の大きな違いだなと感じた(善し悪しではありませんよ)。（５０代）

16. 大変興味深い内容の講座を沖縄で開いて下さり感謝します。（５０代）

17. 両親の最期を考える良い機会になりました。（４０代一般）

18. ぜひ沖縄大学でも、ユタなど沖縄の宗教文化に合ったスピリチュアルケア師や臨床宗教師を育成するコースを設置してほしい。（５０代一般）

19. 感性を高める瞑想など勉強になりました。（４０代）

20. 大下先生の患者さんに対する寄り添い方にとても感動しました。死への考え方が変わりました。ありがとうございました。（４０代一般）

21. エンドオブライフにおけるスピリチュアルケアやグリーフケアなどスピリチュアルケア師、臨床宗教師の役割なども含め学びを深めることができました。何かしてあげようとか、結果を求めようとか、空気を読まないで「空っぽ」にして向き合う。共にあり続けることの大切さを学びました。ありがとうございました。（５０代一般）

22. とても有意義な内容でした。看護師お二人がとても苦しんでいる様に感じました。大下先生のおっしゃる様に成長の過程なのかもしれませんが、もっと楽になって頂きたいなぁと思いました。ケア　フォー　ケアギヴァーですね。（５０代一般）

23. 人生の最後を送る方々に向き合うことは、事の重さから身構えてしまうかもしれません。今回の公開講座はそのような中に一歩踏み出していく大きなヒントが多くあったと感じます。コロナ禍がおさまった後は、是非、対面式で拝聴したいと思いました。（５０代一般）

24. スピリチュアルケアの基本的な考え方から教えていただき大変参考になりました。（５０代一般）

25. 大下先生と現場の看護師さんとのリアルな臨床現場での話、生の声、気持ちを聞けて良かった。（５０代学生）

26. 現在、クリティカルケア領域における終末期患者の家族看護について研究しているため、本日の講座から家族ケアへの示唆が得られるかと考えて参加しました。経験からの知見などたくさんのことが学べました。患者・家族との距

離感を保つことも必要なんだと改めて感じました。ありがとうございました。（５０代）

27. 自分のケアを振り返る機会になりました。（５０代一般）

28. スピリチュアルケアについて詳しく学ぶ機会となりました。ありがとうございました。（４０代一般）

29. 登壇者の方々の生の体験、エピソードが聞けて大変勉強になりました。今後、ますますグリーフケアのニーズが高まると思われます。（４０代一般）

30. 寄り添うの意味を間違って解釈していたことに気づきました。やってあげようの意識が強く、相手の思いを優先することが大事だと改めて方法と共に気付かされました。（５０代一般）

31. 患者さんに、何かしてあげよう、しなくては、では無く、空っぽで接する。すると、患者さんの方から言葉を発する事もある。学びました。（７０代以上一般）

32. 大圓先生のご講義は何度聞いても勉強になります。 今回もとても楽しく聴かせていただきました。（５０代）

33. とても貴重なお話をきくことができました。沖縄県内の現状について、もう少し詳しくきくことができたらいいなあと思いました。 また、個人情報に係ることが多いと思いますが、簡単に事例をお話されていました。老婆心ながら、当事者の方々の了承は得られていたのでしょうか？かなりリアルなお話（しかも死に対してネガティブな印象）だったので、聞く側としてはありがたかったのですが当事者の方が参加されていたら嫌な思いをされていないかなと気になりました。（わたしも元当事者の立場にいましたから。）（４０代地域住民）

34. お看取りへの関わり方やグリーフケアについて、学ばせていただきました。 今後の活動に活かしたいと考えます。（５０代一般）

35. 答えは相手が知っている・・という言葉が印象に残りました。たくさんの学びがありました。ありがとうございました。（６０代一般）

36. 看護師として大下先生の講座は以前参加させていただきました。 今回は余命宣告された父の在宅の看取りの準備として、タイムリーに上原弘美さんのフェイスブックから知り、家族としとの視点から参加しました。 自分は看護師で頑張って、父の看取りまでみようと思っていましたが、最期はプロの力を借りて家族としと看取ることが良いなと学びました。また、葬儀の時は家族葬であってもお別れの言葉告げる時間を作りたいと思います。 また、その経験を スピリチュアルケアを看護に生かしていきたいと思いました。上原さん、金城さんの現場での試行錯誤 自分と向き合う気持ち 素直に話していただき凄くよかったです。 これからも地域は違いますが 繋がっていきたいと思いました。 （５０代一般）

37. 講義の内容が豊富でした。 看護師の方はお二人ともご自身の経験を語ってくださいました。多忙な中でいかに終末期ケアを提供すれば良いか、人材育成の観点からみた質問の回答は、金城さんが納得されたかどうかが気になりま

した。（５０代一般）

38. 瞑想の大切さを再認識しました。看取ることの重要について深い学びになりました。（７０代以上一般）

39. 生きる意味をもう一度確認する大変有意義な研修でした。（７０代以上）

40. 看取りについて、宗教観を超えたスピリチュアルを学ぶことができました。 死を感じる恐怖は、まだ未体験であるだけに、計り知れません。 対人援助の職に就いておりますが、私を迎えようとしている方々に、どんな関わりがいいのか、この公開講座を機に、自分なりに考え、関わって行きたいと思いました。 ありがとうございます♪（４０代一般）

41. 看取りの講演は今までも聞いた事がありますが、スピリチュアルな部分から大変分かりやすく、腑に落ちてくる場面がたくさんありました。 先生の御人柄や語り口が柔らかく、具体性があり更に次回にも聞きたくなりました。（５０代一般）

42. 遠隔での質問もたくさんあって、時間が足りない、もっと大圓先生の話をお聞きしたいと思いました。基調講演やシンポジウムにあったように今後、沖縄スピリチュアルケア研究会との連携、沖縄大学での新しい社会人向け講座などの可能性や、ぴあナースの資格認定講座の模索、総合病院における後継者育成の流れにもつながれば嬉しいです。大圓先生には沖縄や沖縄大学のことを気にかけてくださっていただいたのも嬉しかったです。12 月に大圓先生の研修会も提案があり、楽しみです。相談援助職を目指す学生さんに限らず、もっとたくさんの沖大生の参加があればよかったなあと思いました。（６０代）

43. 分かりやすいお話しで、またそれぞれの方の経験談にも触れられて、とても良かった。（６０代）

44. 毎回の案内有難う御座います。寄り添う支援が何よりなも大切だということがわかりました。 実母も 85 になります。何を望むのかしっかりと聴き取りたいと思います。（４０代一般）

45. シンポジストの方々が様々な感情を抱きながら、それでも日々がん患者さんのためにとケアし、その方の最善を考えておられるんだと感じました。（５０代）

46. 終末期を迎えている身内との関わり方について大変勉強になりました。（５０代）

47. 高齢者を抱える年代になってきましたので今後の為にも参考になりました。（４０代一般）

48. 緩和ケアに携わる看護師として、最期というゴールまでに逆算し出来る事、希望を叶えるお手伝いをご本人やご家族、友人知人などと共に今後も実践して生きたいと思いました。その中で、ケアする側の死生観や相手を受けいれる事の出来る人間性・器を問われるなぁと思いました。また、自分自身が今を大切に生きる事の大切さを感じさせて頂きました。 このような機会を頂き、貴重な講演となりました。ありがとうございました。（３０代）

49. 講演は、いくつかの気づきが得られた（６０代）

50. 今回、「大切な人を最期に看取ること一終末期ケアを考える」に参加を希望したのは、現場で働いていた時に看取りにとっても不安、もっと何かしてあげれたんじゃないかと悩んでモヤモヤして過ごしていた時期があり、終末期の患者さんを受けもつ時に出勤時に足どりが重くなることがありました。自分の死生観をしっかりもって、相手の最期の過ごし方などにもっと話を聞いてあげたら、モヤモヤも不安も後悔も軽くなるなり、患者さんの不安や希望に寄り添えられたのかな。と感じました。現場では忙しくて聞けないことが多いと思うので、スピリチュアルケア専門職がいらっしゃると現場はとても助かると思いました。 死ぬことについては、みんな話したがらないし考えたくないこと。だけど、講演でお話があったように死ぬこと（死生観）から生きることを考えるって難しいけど必要なことだと学べました。 実際に沖縄のお寺などて大下先生がワークショップを開くときは参加したいと思いました。 上原先生、金城先生の体験談のお話しも、患者さん、その家族の思いを実際に学ぶことができました。ありがとうございました。（４０代一般）

51. 講義聴講に値する。（５０代地域住民）

52. 題目の通りの境遇にあったのでとても勉強になりました。（５０代一般）

53. いつかは母とも別れなければならないときが来ると分かってはいますが、死を受け入れることができるか不安でした。少しはその受け入れ方を、学べた気がしています。ありがとうございました。（４０代一般）

54. 終末期の方への関わり方について学ぶことができました。（３０代一般）

55. 大下先生のお話が勉強になりました。また、３人で話されたところも、それぞれの立場からの見解がためになりました。スピリチュアルな部分を、憚ることなくもっと普通に話していただきたかったです。（５０代一般）

■意見・感想（漢字表現等は原文のまま。）

1. 一部、聞き逃したところもあるので、後日の録画配信もお知らせいただきたいです。（60代一般）

2. さまざまな研修会に参加してみたいです。スピリチュアルケア師にも興味があります。（３０代一般）

3. これからも様々な分野の発信を期待しています。（６０代一般）

4. 初めて参加させて頂きました。とても興味のある内容で充実しておりました。機会がありましたら今後も参加させて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。（５０代）

5. このような取り組みをありがとうございます。大圓先生の言われていた沖縄独特のシャーマニズムや死生観についての講演が聴いてみたいです。（５０代）

6. この様なスピリチュアルケアを含めた講座をまた開催して欲しいです。（５０代）

7. 参加させて頂きありがとうございました。（４０代）

8. このような貴重な学びが家にいながらにできたことに大感謝です。 今後もこのような学びの場がございましましたらぜひ参加させていただきたいと思います。（５０代一般）

9. 沖縄大学の地域研究所の取り組みは大変参考になります。今後も様々なイベントに参加させて頂き、勉強していきたいと思います。（５０代一般）

10. 非常に心に響く研修ありがとうございました。（５０代一般）

11. 沖縄から発信という響きが、何か嬉しいです。 中々行く機会がないので、身近に感じられます。（７０代以上一般）

12. とても素晴らしい試みだと感じます。 が、内輪話（今回は医療現場がらみ）になりがちな面がありましたので、その点は意識していただくと幅広い方々がもっと快適に参加できるのかなあ、と感じました。（４０代地域住民）

13. また、ぜひ参加したいと思いました。（６０代一般）

14. 東京からですが、参加させていただきありがとうございました。遠く離れていても zoom という便利な機能で繋がることができて、自分にとってのタイミング良く学ばせてせいただきました。 また、これからもよろしくお願い致します。（５０代）

15. 大変素晴らしい取り組みに一般からも参加できることは有難いです。（７０代以上）

16. またこのような機会をお願い致します。（６０代）

17. 看取りについての研修会って聞いたことがなかったので、貴重な学びができました。ありがとうございました。（４０代一般）

18. お坊さんの木下先生のお話を又聞きたいです。（５０代一般）

19. 大変良い企画をありがとうございます。リモートならではの、遠い地域の様子が垣間見えて、嬉しく思いました。今後も是非続けて、ご案内いただきたいです。（５０代一般）

【講座の様子】



【登壇者：大下大圓】



【登壇者：上原弘美】



【登壇者：金城ユカリ】



【司会：山代寛】



【登壇の様子①】



【登壇の様子②】



【登壇の様子③】



【登壇の様子④】

沖縄キリスト教平和総合研究所 設立十周年記念特別講演会

大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座

アフガニスタンに命の水を

～干ばつの大地に用水路を拓く～



講師 **中村 哲氏**

PMS(平和医療団・日本)総院長・ペシャワール会現地代表

1946 年福岡県生まれ。九州大学医学部卒業。国内の病院勤務を経て、1984 年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。ハンセン病や結核など貧困層に多い疾患の診療活動を開始。その後東部アフガニスタンへも活動範囲を拡げる。医療活動と並行して干ばつに見舞われたアフガニスタン農村復興のため、灌漑・水利事業に携わり現在に至る。2002 年ペシャワール会として「第 1 回沖縄平和賞受賞」、2003 年「ラモン・マグサイサイ賞 平和と国際理解部門」受賞。

写真提供：ペシャワール会事務局







※開演前 13:25 より
中村哲氏の現地活動 DVD
「アフガニスタン・命の水を求めて」
を上映します。

◉一般社団法人大学コンソーシアム沖縄は、県内 11 の大学・短期大学・高等専門学校により構成された団体で、地域社会の活性化及び沖縄県の発展と振興に寄与することをめざし、その取組の 1 つとして、構成機関による持ち回りでの県民向け公開講座を実施しています。

日時 2019 年 9/7 (土) 開場 13：00 開演 14：00

場所 沖縄キリスト教学院仲里朝章記念チャペル

主催 沖縄キリスト教学院 沖縄キリスト教平和総合研究所

協賛 一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

申込不要
入場無料

問い合わせ先：沖縄キリスト教平和総合研究所 〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長 777 番地 Tel 098-946-1279 E-mail ocpi@ocjc.ac.jp

沖縄の子どもの貧困、私たちの課題⑦　大学コンソーシアム沖縄　県民向け公開講座　University Consortium Okinawa

ひきこもった子どもと親たち

ひきこもりだった子とその母親が本音で語る

親の責任？



親支援とは何？

「ひきこもり」がクローズアップされて久しい。沖縄県によると国の実態調査からの推計では、県内の15～39歳までのひきこもり者数は約6,800人、40～64歳は約7,000人、計13,800人となる。県民100人に一人の割合となり、それが引き起こしている問題は決して小さくはない。特に親は自責の念や周囲への気遣いに疲れ、孤立感を深めている。どのような課題をどのように克服していくことがよいのか。先進的な取り組みについて報告を受け、経験者親子のホンネをお聞きしながら沖縄県内での今後の取り組みの方向性を考える。

日時 2020.1.25(土) 13:30～17:15

場所 沖縄大学アネックス共創館

プログラム

趣旨説明 13:30～13:35
島村 聡（沖縄大学地域研究所所長）

第一部 13:35～14:45
講演「全国の状況はこうなっている」
谷口 仁史（認定NPO（特定非営利活動）法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事）

休憩 14:45～15:00

第二部 15:00～17:00
シンポジウム「子どもの訴えにどう応える」
シンポジスト 松本 大進（沖縄県子ども・若者みらい相談プラザ sorae 主任支援員 臨床心理士）
崎原 旦陽（臨床心理士）ひきこもり経験者
崎原 盛子（母）
コメンテーター 谷口 仁史
コーディネーター 島村 聡

全体のまとめ 17:00～17:15

聴講料 無料 事前予約不要

協賛 一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄は、県内11の大学・短期大学・高等専門学校により構成された団体で、地域社会の活性化及び沖縄県の発展と振興に寄与することをめざし、その取組の1つとして、構成機関による持ち回りでの県民向け公開講座を実施しています。

登壇者



谷口 仁史（たにぐち ひとし）（認定NPO（特定非営利活動）法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事）

大学在学中から不登校、ニート等を対象とするアウトリーチ（訪問支援）に取り組む。卒業後、有志と共に法人設立。H30年度までに35万5千件を超える相談に携わった他、ネットワークの構築や社会的受け皿の創出、執筆や講演など多彩な活動を通じて、孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。近年はその実績から公的委員を歴任。「社会保障審議会特別部会」、「子ども・若者育成支援推進点検・評価会議」等政府系委員も務める。



松本 大進（まつもと たいしん）（沖縄県子ども・若者みらい相談プラザ sorae 主任支援員 臨床心理士）

国際基督教大学大学院教育学研究科修了。
琉球大学大学院法務研究科修了法務博士。
情緒障害児短期治療施設：仙台小松島子どもの家セラピスト（被虐待児を児相より措置を受け、家庭に復帰させる職場で勤務。福祉と心理の両面からアプローチ）。
沖縄県スクールカウンセラー
沖縄県子供の貧困対策支援コーディネーター

コーディネーター



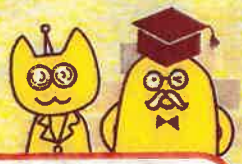
島村 聡（しまむら さとる）（沖縄大学地域研究所所長）

那覇市役所での福祉実務経験を経て、2013年から沖縄大学で、障がい者自立支援制度や福祉コミュニティーに関する講義を担当。県内の子どもの居場所の抱える課題や貧困対策支援員の実情を調査し政策提言を行っている。内閣府振興審議会委員、沖縄県子どものみらい県民会議事業部長を務める。

共催 琉球新報社　**問い合せ先** 沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599【FAX】098-832-3220【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

地域研究所　移転のお知らせ

沖縄大学地域研究所は沖縄大学アネックス共創館にひっこしました！
今後とも地域共創・未来共創の大学として、地域に貢献できる事業を展開して参りますので、よろしくお願い致します。













沖縄大学は2019年4月より3学部5学科になりました！

法経学部	法経学科
人文学部	国際コミュニケーション学科
	福祉文化学科
	こども文化学科
健康栄養学部	管理栄養学科 ▶▶

新設！

沖縄大学への寄附について

沖縄大学への寄附にご賛同いただける方を募集しています！
沖縄大学は2019年4月、県内唯一となる管理栄養士養成学科を新設し、新たな歴史をスタートしました。これまでの2学部4学科から3学部5学科へと教育の場を広げ、「地域共創・未来共創の大学へ」の理念のもと、沖縄県の人材育成と地域の振興に努めていきます。学生支援のために本学の取り組みにご理解をいただき、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

使途指定の寄附金は、寄附者のご意向にかなった目的に使用させていただきます。個人、団体、法人を問わずご賛同を賜り、沖縄大学のさまざまな活動において大きな力となっています。ご支援をお考えいただける方は、ぜひ経営企画室までご連絡をお願いいたします。

メール：keiei@okinawa-u.ac.jp
TEL：098-832-2910
FAX：098-832-0083
〒902-8521
沖縄県那覇市字国場555番地
沖縄大学経営企画室 宛

［沖縄県立看護大学 企画・運営］ 令和元年度大学コンソーシアム沖縄公開講座

人生の達人の暮らしぶり

－老いることに心を弾ませて－

老い方	人生100年時代のモデル高齢者
暮らし方	80歳になったことでわかる幸せ
生き方	要介護高齢者にできる地域貢献
終わり方	人生の集大成は“我が家”で

講師 田場 由紀氏　沖縄県立看護大学老年保健看護准教授



沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

2020年 **2月2日(日)**

14:00～15:30(90分)

沖縄県立博物館・美術館 1F講座室



事前申込不要　入場無料

お問合せ先 沖縄県立看護大学 総務課
〒902-8513 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL：098 (833) 8800 (代表)　FAX：098 (833) 5133
http://www.okinawa-nurs.ac.jp

資料２

大学コンソーシアム沖縄の今後の運営及び事務局体制について

１．今後の法人運営について

（１）<u>各大学・短期大学・高等専門学校にとって、本法人の存在価値の理解、再認識</u>

①今後、少子・超高齢化社会が進む中、大学等において学生確保の観点から１つの機関で個別バラバラに対応するのではなく、大学等が一枚岩となり、大学コンソーシアム沖縄として、今後、どのような連携ができるのかを検討する必要がある。

１）県外の学生確保に向けた仕組みづくり

２）合同による教職員研修や効率的な大学運営による事業経費の削減

３）単位互換による魅力あるカリキュラムづくり

４）インターンシップや学生就職先の確保に向けた仕組みづくり

②沖縄県における地域課題を解決するためには、大学等が個別バラバラに対応するのではなく、連携することにより、１機関では対応できない様々な課題解決に向けた取組が可能となる。

例）共同研究、共同事業

（２）今後の法人が実施する事業について

①令和元年年度から令和３年度（１０月）までの事業

大学コンソーシアム沖縄では以下の事業を実施。

【沖縄県からの委託事業】

１）子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（令和３年度、令和４年度継続予定）
子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

【その他】

１）県民向け公開講座

２）ＦＤ・ＳＤ事業

３）合同入試説明会

４）ＳＤＧs への取組み

②今後の事業提案

上記①は、この３年間で実施してきた事業であるが、定款第４条に明記された事業について、各大学等の現状を踏まえ、実施のあたっての以下の事項、課題などを議論する必要がある。

１）公益社団法人化等

・安定的な法人運営を行うためにも、財源の確保は必要であることから、寄附金の受入のためにも、公益法人化する。また、併せて事務局体制の整備と諸規定の整備も行う。

２）各大学が持つ課題や要望などを議論する場の設定、それに対応するための事業の実施

３）子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

４）法人のミッション（定款第４条における事業）でこれまで未実施な事項は，単位互換、共同研究、産学官連携及び交流である。

（３）今後の事務局体制について

上記（２）の②を実施するためには、事務局体制の整備は必要不可欠となる。

①事務局長について

平成３０年度の社員総会において、事務局長は、大学等の職員をもって事務局長に充て、これまで事務局業務を琉球大学が担ってきたことから、30 年度の事務局長は暫定的な措置として琉球大学の管理職にある者を充てることとされ、現在まで琉球大学総合企画戦略部長が担っている。今後の事務局長の取扱について検討する必要がある。

案１：現状のまま琉球大学に勤務する管理職にある職員を併任として発令

案２：各大学持ち回りによる職員の出向

案３：専任の職員を採用，１日６時間，週３日程度勤務してもらう。

経費：時給１，５００円×６時間×週３日×４週／月×１２か月＝1,296,000 円

＝約１３０万円

②事務職員について

案１：各大学持ち回りによる職員の出向

案２：専任の事務補佐員１人を採用

経費：時給１，１００円×６時間×週３日×４週／月×１２か月＝950,400 円

＝約９５万円

③執務室について（案）

琉球大学の執務室の一角を借用して利用する。

（４）法人の運営に係る経費について

（経常経費）

①上記（３）の①及び②の人件費（２人分）

②施設使用料（光熱水費を含む）

③複合機のリース料

④通信運搬費（電話料金・インターネット利用料、郵送料）

⑤消耗品費、⑥交通費（移動に係る経費）、⑦印刷製本費（パンフレット等）　等

（事業経費）

①沖縄県の委託事業（子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業　等）

②その他（今後実施する事業）

※法人の運営に係る経費の捻出について検討する必要がある。

２．大学コンソーシアム沖縄としての対応（案）

上記３の今後の法人運営で提案したことを実行に移すためにも、運営委員会において大学コンソーシアム沖縄が実施する事業の情報共有を図るとともに、今後大学コンソーシアム沖縄の運営に係る諸課題について議論し、本年度中に法人運営等の方向性をまとめ、総会に提案する。

【ご寄附頂いた皆様（順不同）】

■子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

・一般財団法人オリオンビール奨学金財団
・株式会社國場組
・沖縄県酒造組合
・株式会社日本トランスオーシャン航空
・株式会社オーエスジー・株式会社大城組
・琉球宇温基金
・株式会社 MUGEN
・沖縄法政学会
・24 時間ではしりぬける物理実行委員会/東京学芸大学
・J・TAP 協力会
・寺田克彦（テラ・ウェブ・クリエイト）

■沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN プロジェクト

・株式会社沖縄銀行　・株式会社琉球銀行
・株式会社沖縄海邦銀行・沖縄ヤマト運輸株式会社
・沖縄電力株式会社　・株式会社りゅうせき
・コザ信用金庫　・沖縄ツーリスト株式会社
・オリオンビール株式会社　・株式会社サンエー
・株式会社ジェイシーシー
・大同火災海上保険株式会社
・イオン琉球株式会社　・株式会社金秀本社
・公益財団法人金秀青少年育成財団
・沖縄ガス株式会社　・琉球海運株式会社
・一般社団法人沖縄県情報産業協会
・株式会社前田産業　・株式会社屋部土建
・株式会社ゆがふホールディングス
・沖縄経済同友会
・ＡＮＡあきんど株式会社　・全保連株式会社
・三井住友海上火災保険株式会社沖縄支店
・琉球セメント株式会社　・大伸株式会社
・株式会社 JTB 沖縄　・株式会社琉球新報社
・株式会社沖縄タイムス社　・医療法人タピック
・琉球インタラクティブ株式会社

■大学コンソーシアム沖縄 賛助会員

・岸本ファミリー個人慈善基金
・放送大学沖縄学習センター

大学コンソーシアム沖縄事務局
TEL：098-895-8998　FAX：098-895-8185
MAIL： chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

University Consortium Okinawa

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

加盟校一覧
（設立順）

- 琉球大学 University of the Ryukyus
- 沖縄キリスト教短期大学 / 沖縄キリスト教学院大学
- 沖縄大学
- 沖縄女子短期大学
- 沖縄国際大学 Okinawa International University
- 公立大学法人 沖縄県立芸術大学 Okinawa Prefectural University of Arts
- 公立大学法人 名桜大学 Meio University
- 沖縄県立看護大学
- 沖縄工業高等専門学校
- OIST 沖縄科学技術大学院大学

☞大学コンソーシアム沖縄のロゴマークは沖縄県にある 11 高等教育機関の持つ、専門的教育を丸の集合体で表し、連携・交流による活動の熱意を「赤色」で、地域社会へ発信する成果を知力の「オレンジ色」で表現しています

趣旨・目的　～連携と協働で地域へ貢献～

資料３

今、ICT の急速な進展と本格的な人口減少は、既存の産業構造、就業構造、さらには人々の生活を大きく変えはじめ、人生 100 年時代が到来しています。ひとり一人の持つ力や才能の発揮を後押しする様々な取組や制度の創出が喫緊となり、**幅広い視野や国際感覚を持った人材の育成**、そして、**地方創生の推進拠点としての社会人教育、地域課題を解決**する複合的な学術連携や産学官連携が、ますます求められるようになっています。

このような中、「一般社団法人大学コンソーシアム沖縄」は、沖縄県内の大学が、相互に建学の精神を尊重しつつ、有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また産学官の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的として、平成 26 年 9 月に設立されました。

本法人では、次のような事業を定款に明記して、**県内の１１の高等教育機関**がそれぞれの特長や強み、個性を活かした教育の質向上に努めながら、時には直接的に、時にはこれらを複合的に関連させた実施事業を編成し、協働して取り組んでいます。

これからも本法人では、**沖縄の多様性・地域性・国際性を念頭に**、時代の変化や地域の皆さまのニーズに対応しつつ、**地域の発展を目指して**、**自治体や産業界等と協働して大学連携機関らしい事業を推進**してまいります。

1．グローバル人材の育成
2．単位互換
3．学生間の連携・交流
4．共同研究
5．教職員の研修、交流及び情報交換
6．小中高大連携活動
7．公開講座（県民フォーラム・出前講座）
8．産学官連携
9．各種の地域社会貢献
10．その他前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

大学コンソーシアム沖縄の主な実施事業

■グローバル人材育成事業
■地域課題対応事業
■FD・SD 事業
■生涯学習事業
■その他事業

【これまでの活動実績】

◇大学コンソーシアム沖縄 運営体制

・代表理事　西田　睦（琉球大学学長）
・社員総会（定時総会６月、臨時総会２月）
・運営委員会（年３回程度）

◇大学コンソーシアム沖縄の主な事業活動

■平成 26 年度

1　第１回シンポジウム 2014
2　第１回沖縄学生サミット 2014

■平成 27 年度

1　第２回シンポジウム 2015
2　第２回沖縄学生サミット 2015
3　県民向け公開講座（各大学持ち回り）
4　平成 27 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）

■平成 28 年度

1　第３回シンポジウム 2016(写真)
2　第３回沖縄学生サミット 2016
3　平成 28 年度県民向け公開講座（各大学持ち回り）
4　平成 28 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）
5　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）



■平成 29 年度

1　第 14 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
2　平成 29 年度県民向け公開講座（各大学持ち回り）
3　平成 28 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）
4　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
5　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）
6　グローバル・ピース・ダイアログ沖縄(写真)
7　中国大学生友好交流訪日団の学生との昼食交流会

■平成 30 年度

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）
3　平成 30 年度県民向け公開講座（加盟校連携）

■令和元年度

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　令和元年度県民向け公開講座（加盟校連携）
3　FD・SD 事業

■令和２年度

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　令和２年度県民向け公開講座（加盟校連携）
3　FD・SD 事業
4　県内大学 WEB 入試説明会（高等学校 PTA 連合会共催）

■令和３年度

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　令和３年度県民向け公開講座（加盟校連携）
3　FD・SD 事業
4　県内大学 WEB 入試説明会（高等学校 PTA 連合会共催）
5　沖縄県の「おきなわＳＤＧｓパートナー」へ登録

◆子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

本事業は、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の一環として、内閣府が沖縄県に補助金を交付し、沖縄県が大学コンソーシアム沖縄に事業を委託する形で取り組んでいるものです。具体的活動としては、当法人が子どもの居場所学生ボランティアセンターを運営し、県内の子どもの居場所とボランティアとして活動したい学生のマッチングを行っています。学生に身近な「お兄さん、お姉さん」的な存在になってもらい、子どもたち一人一人に寄り添ったサポートを通して、子どもの居場所への安心感が高まることや、子どもの自己肯定感が向上することを目指しています。

●子どもたちへのプラスの影響●

子どもの居場所へのアンケートでは、子どもたちが「学生を慕い、会う日を楽しみにしていた」という回答が８割を超えています。（令和２年度アンケート）。その他にも「子どもたちの安心感が増えた」「子どもたちの対人関係能力が向上した」などの声をいただいております。

●寄附について●

皆さまの温かい寄附が学生の謝金になります。生活費や学費を自身で捻出している学生もおり、学生からは「謝金のおかげで安心して活動できる」「アルバイトを減らしボランティア活動ができる」「謝金があることで責任感が持てる」との声があります。ボランティアの経験が学生のコミュニケーション能力や将来像に良い影響を与えており、子どもだけではなく学生を含めて沖縄の人材育成へ貢献する事業となっております。



ご寄附を検討されている方は以下のホームページをご覧下さい。
https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/

●問い合わせ●
TEL：098-895-1939　FAX：098-895-1940
MAIL：kg-vc@consortium-okinawa.or.jp
ADD：中頭郡西原町字千原１番地 琉球大学本部棟１階

◆沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN プロジェクト

本事業は、将来の沖縄の経済社会を担い、グローバルに活躍する意欲と能力のある若者たちが積極的に海外留学できるよう支援することを目的に国からの３割の助成と残り７割を県内企業等からのご支援により実施しているものです。令和２年度、令和３年度は新型コロナウィルス感染症のため、派遣中止となりました。

●これまでの派遣実績●

・H27～H31(R1)の５年間で 40 名（10 ヶ国）派遣。派遣先：ベトナム(8)、シンガポール（8)、香港(7)、台湾(5)、マレーシア(4)、フィリピン(4)、インドネシア(1)、カンボジア(1)、上海(1)、韓国(1)
・令和元年９月 20 日壮行会、令和２年２月７日報告会を実施し、ご寄附頂いた企業様、経済同友会等経済団体様、県等の公共団体から参加された方々との交流も深めています。

●参加した学生の声●

「留学を通して、発言すること、行動すること、継続することが大切であると学びました。これからも自分のゴールに向かって挑戦し続けます」「グローバルの要素を取り入れつつ、沖縄の発展に貢献できる人材になりたい」



●寄附企業様の声●

「若者が目を輝かせていると嬉しく頼もしく思う」「人材育成は一番の要、依存から自立を考える時、彼らの力が必要」

ご支援。ご寄附を検討されている方は次の URL をご覧下さい。　https://www.tobitateokinawa.com/

●問い合わせ●
TEL：098-895-8030

資料４

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄監査に関する申合せ

令和２年２月２７日
制　　定

（趣旨）

１　この申合せは、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄組織規則（以下「規則」という。）第４条第２項の規定に基づき、監査人の監査に関し必要な事項を定める。

（監査人の指名及び任期）

２　代表理事は、次の表に基づき、理事のうちから監査人２人を指名する。

監査人の任期は、２年とする。ただし、任期満了前に理事が退任した場合の後任監査人の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

指名する順番	１	２	３	４	５	６	７	８	９	１０
大学等名	琉球大学	沖縄ｷﾘｽﾄ教学院大学・沖縄ｷﾘｽﾄ教短期大学	沖縄大学	沖縄女子短期大学	沖縄国際大学	沖縄県立芸術大学	名桜大学	沖縄県立看護大学	沖縄工業高等専門学校	沖縄科学技術大学院大学

（監査人の権限）

３　監査人は、いつでも、規則第３条に規定する業務執行機関及び規則第７条に規定する事務局に対して事業及び事務の報告を求め、又は本法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（監査の方法）

４　監査は、書面及び実地により行う。監査において、本法人の役員及び職員は、監査人から説明又は資料の提供を求められた場合には、積極的に協力するものとし、正当な理由なく、これを拒むことができない。

（監査報告）

５　監査人は、監査を行った場合において、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、代表理事又は社員総会に意見を提出することができる。

監査人は、事業年度の終了後３ヶ月以内に、当該事業年度の決算書類及び事業報告書を監査し、その結果を社員総会に報告しなければならない。

６　この申合せの改廃は、社員総会の議を経て、代表理事が行う。

附　則

この申合せは、令和２年４月１日から施行する。

【 参 考 】　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄組織規則

（業務執行機関）

第３条　本法人の業務を執行するため、次の業務執行機関を置く。

(1) 代表理事

(2) 副代表理事

２　代表理事は、法人を代表し、その業務を統括する。

３　副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるときにその職務を代理する。

参考資料　1

（H30 第 1 回運営委員会資料）

全国大学コンソーシアム協議会　加盟組織の概要（基礎資料）

（平成 29 年 7 月 10 日現在）

１．**加盟団体**：４８団体

２．**設立が一番早い団体**：愛知学長懇話会　設立　１９９３年１０月２７日

３．**加盟団体が最も多い団体**：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩　７１団体（賛助団体除く）
一般社団法人教育ネットワーク中国　９４団体（賛助団体含む）
最も少い団体：f-Campus　５団体

４．**加盟団体数の分布（賛助団体を除く）**：

１０未満：１２団体	１０団体以上２０団体未満：１７団体
２０団体以上３０団体未満：　９団体	３０団体以上４０団体未満：　３団体
４０団体以上５０団体未満：　３団体	５０団体以上６０団体未満：　３団体
７０団体以上：　１団体	

５．**自治体が加盟する団体数**：３０団体
自治体加盟数が最も多い団体：公益社団法人　大学コンソーシアム石川　２０自治体

６．**加盟団体の総学生数が多い団体**：
①特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪　学生数１７８，７３１人
②愛知学長懇話会　学生数１７６，５４１人
③公益財団法人大学コンソーシアム京都　学生数１７２，２５１人　各種学校の学生数２，１３３人

７．**２０１６年度決算における収入総額の多い団体（公開している団体３２団体）**
①公益財団法人　大学コンソーシアム京都　５億５，１４１万円
②特定非営利活動法人　大学コンソーシアム大阪　１億４，２２７万円
③公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム　９，９２４万円
④公益社団法人　大学コンソーシアム石川　９，２５８万円

８．**自治体からの補助金収入（H28 年度）**：１７団体（４，４８７万円～１万円）
大学コンソーシアム八王子　４，４８７万円（八王子市）
※大学コンソーシアム沖縄　３５０万円（沖縄県）

９．**自治体からの委託事業・助成金収入（H28 年度）**：１３団体（２億２，０８４万円～２６万円）
大学コンソーシアム八王子　２億２，０８４万円（京都府・京都市）
※大学コンソーシアム沖縄　１，８９４万円（沖縄県）

１０．**学生数に応じて単価をかけて会費を徴収している団体**：１５団体
学生１人あたりの単価：10 円、29 円、50 円、60 円、100 円、150 円、200 円、300 円、350 円、500 円、700 円、1,000 円

１１．**主な事業**

①単位互換を行っている団体数：	３７団体	②生涯学習事業：	２７団体
③学生交流事業：	２５団体	④産学連携事業：	２０団体
⑤研修事業（FD/SD）：	１９団体	⑥高大連携事業：	１８団体
⑦留学生支援事業：	１４団体		